大本山 國泰寺

Kokutai-ji Zen temple

主な行事

- 大般若祈祷会［正月一・二・三日］
- 涅槃会［二月十五日］
- 春彼岸会［春分の日］
- 降誕会（花祭り）［五月八日］
- 開山忌［六月二・三日］
- 秋彼岸会［秋分の日］
- 達磨忌［十月五日］
- 法燈忌［十一月十二・十三日］
- 成道会［十二月八日］

■交通アクセス

【JR高岡駅より】加越能バス　氷見行（守山まわり）国泰寺前下車　徒歩15分
自動車・タクシー　約20分

【JR氷見駅より】加越能バス　高岡行（守山まわり）国泰寺前下車　徒歩15分
自動車・タクシー　約20分

摩頂山 国泰寺　〒933-0137 富山県高岡市太田184
電話 0766-44-0610　FAX 0766-44-1020

時流れ 苔むす巌となりて 今もたたずむ――

仏足石

開山忌風景

開山忌・法燈忌には全国から数十人の虚無僧が集まり尺八を奏する。当寺は虚無僧妙音会の本山としても有名である。

利生塔

観音堂

禅堂

月泉庭　月泉庭・龍淵池は小川寿一氏の名作。石は開山国師ゆかりの二上山の砂岩。中央の巨石は約42トン。庭園の石としては恐らく日本一であろう。

大本山

国泰寺

寺号額

国泰寺は北陸路には数少ない臨済禅の道場で、臨済宗国泰寺派の大本山である。

御開山の慈雲妙意禅師（一二七四―一三四五）は行脚の時、二上山の幽邃の境にひかれて、山中の草庵で独り坐禅に励んでいた。たまたま通りかかった弧峰覚明（三光国師）に誘われて、紀伊由良の西方寺（現興国寺）の無本覚心（法燈国師）に参じて大悟するも、まもなく師の遷化に会い、二上山の旧居に帰り悟後の修行に励んだ。

やがてその禅風を慕って雲水が集まり、嘉元二年（一三〇四）には摩頂山東松寺を開創した。嘉暦二年（一三二七）参内して後醍醐天皇に法要を説き、「清泉禅師」の号を賜り、翌年には「護国摩頂巨山国泰仁王万年禅寺」の勅額を下賜され勅願寺となった。興国三年（一三四二）には南朝の後村上帝より後醍醐天皇の御肖像が送られ、「臨幸に代える」との御宸翰あり。天皇殿のあるゆえんである。

更に北朝の光明天皇の帰依を受け、康永四年（一三四五）六月三日「天に月あり、地に泉あり」の末後の句を残して、七十二歳をもって示寂。光明天皇より「慧日聖光国師」の諡号を受けた。塔を「正脈」と号し、室を「大円」という。

慧日聖光国師尊像

その後、守護代神保氏の崇信を受けるも、応仁以後の戦乱により荒廃した。二十七世雪庭和尚は後奈良天皇の綸旨を受けて再興するも、天正十三年（一五八五）前田利家に方丈を守山に取られ（利家安堵状）現在地に移ってきたようである。

江戸時代になって、貞享三年（一六八六）には現在の大方丈が建立され、将軍綱吉は当寺をもって法燈派総本山とし、享保年間には萬壑和尚等によって伽藍の大整備が行なわれてほぼ現在の形となった。

明治維新では排仏毀釈の余波を受けたが、越叟・雪門両和尚は山岡鉄舟の尽力を得て、天皇殿の再建をはじめ諸堂宇の修造に努めた。また西田幾多郎や鈴木大拙が若き日に北条時敬の勧めにより雪門に参じた。

明治二十五年虚無僧尺八の妙音会が設立され、法要の時には読経と法竹（尺八）の合奏という独特の習慣がある。特に開山忌（六月二日・三日）には二十名ほどの虚無僧が集まり、古刹に響き渡る妙音は風物詩となっている。

先住心田和尚は「人命尊重」を祈願して利生塔の建立、月泉庭や龍淵池（放生池）を整備し、大衆のために禅堂を開放して団体・個人の坐禅指導に努めた。

御開山の「己事究明専一なり」の言葉を奉じて、現在も大衆に開かれた禅道場を目指して励んでいる。

龍淵池と法堂

寺宝

◆後醍醐・後村上・光明・後奈良天皇の御宸筆◆後醍醐天皇勅彫肖像◆肉付払子◆霊芝天然如意（無門慧開禅師愛用の品と言う）◆山岡鉄舟の屏風◆その他